

もたら
馬が齎せてくれるもの

ミャークヌーマ(宮古馬)
たちへ捧ぐ(下)

矢谷 左知子(草世界探求/草の翻訳/草暦制作)



馬たちはずっと待っていた
人がまた、この星のこれからを
馬と共に生きていくことを・・・
そして、その時は、はじまっている

前回に書いたように、私はこの25年ほど草とは労働を通して身体で関わりながら、その美に触れるべく草で布を織る作家活動をしてきました。そこでは、言葉にはならない、でも確実な、命の本質に触れる手応え、その奥に広がる深い神性なるもの、を心震える思いで実感してきました。

去年は降って湧いた、思いもかけない馬のこと、目指したわけでもなく、戸惑いながらも、今これをやるしかない、と始まった宮古馬のことをしていくなかで、当初は行政の問題のことなど、最も不得意分野をやることに気が重かったのですが、まもなく、それではない、と気づかされました。もちろん、そちらも必要ではあるのですが、私にはできない、そして私の動きはそちらではない、と。

まさに馬たちからは、ソッチジャンナイ、と言われた気がしました。
草からおしえてもらったでしょ、と。

長年、野生の草たちからは、この世界の本質に触れさせてもらう日々を授かっていました。

そして、今、その草たちが、馬へと送り出してくれている。
草と馬、これまで自分のなかに関連のなかったものが降って湧いて結びつき、いまではその二つが自分の主題となりました。

それは、行政とのやりとりよりも、もっと壮大で、もっと途方もないことでもあります。でも、そこ、と。 うーん、そう来たか、と思いました。

この100年、世界は大きく変わり、それ以前、車や機械の代わりにしてくれていた馬を

人々は真っ先に忘れ去りました。
これまで何百年と人の歴史は馬なしでは有り得ず、その手助けと共に創られてきました。近代になり、人はそのだいたいの仲間を見捨て、生きることすらを許さず、土地固有の馬たちは、世界各地で急速に頭数を減らし、絶滅に瀕しています。もちろん、それは馬だけではありません。あらゆる動物は人の世界に完全に組み敷かれ、同じ運命にあるのですが。

でも・・・ここに来て、なんだか世界中で、馬との暮らしを取り戻そうとする動きが駆け足ではじまっているのです。
馬と旅をするホースキャラバンや、馬と心を通わすホースセラピー、日本でも、馬耕、馬搬を始め、ただ庭で馬と暮す、そんな人も現れ始めました。

自分に突然馬が降ってきたと思ったら、周りでも同時多発のようにそれが起っている。
これは、人が、馬とのあたらしい可能性に気づき始めた、ということではないか、と感じるのです。
あちこちで馬と人の関係性が取り戻されている、でもそれはこれまでとは違う意識のもと、人と馬はあたらしい世界を共に作っていく、それがいよいよ始まったのでは、と。
その世界、とは、心の通い合った真の共存の世界です。

馬たちは、ずっとそれを待っていた。
そして馬たちからのそのメッセージを感じ取れる人類が、今、出現し始めているのではないか。

ではこれから馬と人はなにをしていくのでしょうか。
各時代には、その時代のキーワードがあります。今、「馬」はなにがしか、「この今」のキーワードの一つなのではないでしょうか。それほどに、私だけでなく、多くの人々が今、馬に対して心揺さぶられ、馬と一緒に動こうとしているのです。

馬に代表される次なる精神性の在り処へと、馬が先導する役割、それがこれから来る時代の先陣なのでは、と感じています。

それが何なのか、そこは深い問いかけです。いまはまだ、そこに意識の合う者が各自、核心に向かって目の前のできることに全力を尽くすのみ、その先は着いてくる、としか言えません。

植物から、動物から、差し伸べられている救済の手に気づく人類の総数が増えるかどうか、それでこの先の地球の行く末は決まるのではないのでしょうか。
宮古島の馬たちを筆頭に、馬は今、身をもって、私たちにメッセージを発してくれていると思っています。

かつて、世界中に馬が満ち、人は馬なしには何もできない、そんな時代が何千年もありました。人や荷を遠くまで速く運び、田畑を耕し、山の木を運び出し、それらすべてをしてくれていた馬が世界から消えて久しいこの文明。ですが、ここに来て、馬の復権が興っているということに、なにかこれからの希望の灯明を感じています。

というわけで、表現しがたい馬次元の深みですが、6月には宮古島にて「馬と人のこれからサミット」という大きなタイトルで、小さなあたたかな集まりを持つことになりました。どなたでも参加していただけます。詳しい情報は近日中にfacebookの「ミャークヌーマ宮古馬の会」ページにてお知らせさせていただきます。

facebook「ミャークヌーマ宮古馬の会」
<https://www.facebook.com/miyakouma/>

さあ、一緒にその先へ行こうよ、と馬たちから呼びかけられている、そんなふうに向う日々の中にて